

入試結果報告

今年も残り約一ヶ月となりました。松桜塾でも秋以降、入試本番を迎える生徒さんが多くいます。その中で一足先に合格の報告をうけましたので、体験記と共にご紹介します。

R・Kくん

関西学院大学（社会学部）合格



私は入試まで残り二ヶ月半という絶望的状况からスタートしながら、松桜塾の先生方のご尽力により関西学院大学の社会学部に合格することができました。

留学から帰国当初の私は、グローバル入試というものを甘く見ていた節がありました。「二年半も留学していただし、何とかなるだろう」そんな風に考えていました。しかしながら蓋を開けてみると、小論文の過去問を見ても理解できないだけでなく、志望理由書の作成すら先生方の助けなしでは筆が進まないような状態です。然としたのを覚えています。そこで初めて、「これはヤバイ」という焦りを感じ、真剣に取り組み始めました。幸いなことに本を読むことだけは嫌いではなかったため、暇な時間はただひたすら社会学に関連する書籍の読み込みにあてるといような生活を一ヶ月半ほど続けました。

ワークショップ振り返り

11月14日・15日に、「親だつて松桜塾！ 大人向け体験授業（通称：親勉）」を開催いたしました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響もあり、教室での開催は久しぶりでしたが、休日や朝の貴重な時間に多数ご参加いただき、ありがとうございます。

親勉は、子どもたちが教室で取り組んでいる教材を保護者の皆さんにも挑戦してもらうワークショップです。今回は、今までもあまり扱ってこなかった教材を用い、お家でも活用できる方法をご紹介します。

★「基礎の鍛え方」講座



低学年向けの講座では、正しい語順で短文を書くことから、4コママンガの内容の文章化、科学の文章のまとめ方にいたるまでを体験していただきました。書く作業を通すと、口で話すときには気にしていない主語と述語の関係や、自他動詞の使い分けなどが自然と意識させられます。そして、考えが可視化されると、情報を整理することができるようになります。

大人になると接続詞を用いてお話を考える機会



その結果、合格という栄冠を掴む事が出来ました。知識や思考を讀書によって得るという習慣を養える環境が私の周りに整っていたからこそ合格であったといっても過言ではないと思います。

松桜塾は、授業の中で自然と多くの文章に触れ、読書習慣を育むことのできる数少ない場所であると思います。ぜひ皆さんも読書が好きになり、それを目標達成の知識獲得に役立ててください。



近年、当塾でも推薦入試の受験希望者は増えています。ただ、その試験も簡単に受かるものではありません。一般入試と同じく、課題文に書かれている内容を正しく読み取る力・理解したことを書きまとめて表現する力が欠かせません。入試形態によっては、専門分野についての知識が大学生並みに求められることもあります。

R君も小学生の頃、松桜塾に通い、基本的な読み方・書き方を修得していました。しかし、それだけでは足りず、相当な努力を自分で本を読み込んでいく作業をしてきていました。以下、R君が読んでいた本を一部ご紹介します。

はあまりないかと思えます。それでも、皆さま書くうちにコツをつかみ、クスツと笑ってしまう楽しい話を作ってくださいました。また、マンガ作文は読解力と記述力が試される、大人も思わず唖ってしまう教材です。実際に書いてみることで、いかに子どもたちが日々難しいことに取り組んでいるのか実感していただけたと思います。

★「説明文・評論文の読み方」講座

高学年向けの講座では



説明文が読み取れるようになるパラグラフリーダーディングを題材にしました。この技法は各段落の要点をつかみ、段落相互の関係性を整理し、全体を理解するものです。「大事なところ」は段落最後にあるわけではなく、逆説の接続詞に注目するといったテクニクを用いて見つけられるものでもありません。

「つまり何が言いたいのか」という解釈が最も重要となるため、皆さまどう書きまとめるか、真剣そのものでした。最後に文章テーマに気づかれたときは、教室で子どもたちが見えるように、ご参加の皆様顔もパツと明るくなり、読み解く面白さに気づいていただけ

『人間不平等起源論』ジャンジャックルソー

本田喜代治・平岡昇訳（岩波文庫）

『命題コレクション』社会学

作田啓一・井上俊（ちくま学芸文庫）

『ディスタクシオン』社会的判断力批判

ピエール・ブルデュー

『ブルデュー「ディスタクシオン」講義』

石井洋二郎

筑摩プリマール新書『中学生からの大学講義』シリーズ

など



筑摩プリマール新書の『中学生からの大学講義』シリーズは、社会学だけでなく生物学・哲学など様々な分野を取り上げた本で、松桜塾でも中学生・高校生によくお勧めしています。推薦入試のためだけでなく、世の中にはどんな学問があるのか、世界を知るための一歩にもなるかと思えます。

読書は楽しさを与えてくれるだけでなく、私たちの見方を広げ、行きたい未来に近づけてくれるものでもあります。忙しい中でも、じっくり文章を読む時間、考える時間を設けてみてください。

たようです。その後は、実際の入試問題に挑戦。子どもたちがどのように解き進めると良いのか、お家での取り組み方も紹介しました。

ノートに書かれた子どもたちの作文は、授業の間に試行錯誤した結果でしかありません。同じように読み・考えていただくことで、どういった思考過程をたどるか、何にまずまずいかが見えやすくなったり、子どもたちの頑張りに気づけたりします。今後も「親勉」は定期的開催していきますので、ぜひ皆さんも勉強にいらしてください。

松桜塾からのお願い

松桜塾では、よりよい読書環境をつくるために定期的に蔵書の点検、修繕を行っております。もし、ご自宅に読み終わった松桜塾の本がありましたら教室にお持ちください。

松桜塾の本には左記のシールがはつてあります。年末の大掃除等でご確認、ご協力よろしくお願いたします。



↓松桜塾シール



『番ねずみのヤカちゃん』

対象学年／小学校低学年から

今回、私が子供のころ一番気に入っていた本を紹介いたします。人間の家の壁の隙間に住んでいるネズミのお話です。ネズミたちがいることはその家に住んでいる人間には絶対にバレてはいけません。駆除されてしまうからです。

そのため、ネズミたちは壁の隙間で息を潜めて静かに暮らしています。しかし、中に一匹だけとても声の大きいネズミ、ヤカちゃんがいま。憎めない素直な性格をしているのですが、とてつもなく大きい声を出してしまうため、他のネズミに怒られてしまいます。こちらもヤカちゃんの子でその家の主人にバレしてしまうのではないかととてもヒヤヒヤします。お話の最後は、予想していないことが起きるかも…。それは読んでみてからのお楽しみです。

みなさんの家の壁の隙間にも、可愛い可愛いネズミが住んでいるかもしれませんね！ぜひ耳を澄ませてみてください。



リチャード・ウィルバー 著
松岡享子訳
福音館書店
1430円(税込)

コクゴのチカラ vol.41

松桜塾 662-0036 西宮市大井手町3-11 夙川ビル2F TEL 0798-74-2801 FAX 0798-74-8686
info@glit-shouou.com http://www.glit-shouou.com/ 2021年11月22日発行(第41号)

松桜塾では左記の日程で冬期講習を実施いたします。長期休みのこの機会に是非、松桜塾の「考える授業」をご体験ください。詳細はホームページをご覧ください。ご参加お待ちしております。

◆実施期間

12月20日(月)～1月7日(金)

※土日祝・年末年始をのぞく

低学年ベーシックコース 60分×3回
高学年以上スタンダードコース 90分×3回



◆2月13日イベント告知

午前 入試分析会【中学・センター試験】
午後 学習相談会&入塾説明会

※塾生以外の方も参加可能です

◆3月中旬イベント実施予定

親だつて松桜塾！ 入試問題に挑戦

イベントの案内は改めて告知いたします。

詳細はホームページをご覧ください。

月謝引き落とし

12月度 11月29日(月)
1月度 12月27日(月)

祝日による休塾日

1月10日(月) 成人の日
2月11日(金) 建国記念の日
2月23日(水) 天皇誕生日
*月・水・金の通塾生は授業を振り替えてください。

年末年始による休塾日

12月29日(水)～1月4日(火)

新型コロナウイルス感染対策

松桜塾では、継続して感染防止対策を行っております。また、教室内の人数も調整して授業を行っております。そのため、座席数には限りがございます。予めご了承ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。ご意見・ご感想などございましたら、ご遠慮なくメール・FAXにてお聞かせください。今後の教室の運営、ニュースレターの作成に反映させ、ますますの充実を図って参ります。また、本紙の配信がご不要の場合、その旨ご一報くださいますようお願いいたします。

豊

かなことばが導く世界

先日、スタッフが息子さんから音楽会の招待状を受け取ったものを読ませてもらいました。「夜が長くなってきました。〇〇さま、お元気ですか。ぼくは元気です。……」おそらく学校の先生が示す、季節の挨拶をいれる、相手の安否を問う、「手紙の書き方」の指導の定型に従ったのでしよう。彼が毎日元気にしているのは知っているし、母親の姓名に敬称をつけて呼ぶのも不自然です。しかし、時候の挨拶から始まっていること、その内容「夜の長さ」と「音楽会」との組み合わせの妙を感じて、ちよつと感心しました。

ことばは不思議なもので、本来分かるはずのない他者の感じ方を、同じ「ことば」を当てはめることで、同一化して理解していきます。感覚は非常に個人的なものですから、柱に足の指先をぶつけた時、感じる痛みは人それぞれに違い、その人にか分からずにはいけません。しかし、「痛い」「じんじんする」「しびれるような」などことばで表現すること、その人はおそらくこのような痛みであると思像して理解し、共感することが可能になります。時候の挨拶

挨拶というひとつの定型の中に、人間の知恵が隠れています。時候の挨拶は、季節と感覚を合わせて言語化し、今、共に生きているこの時を共有させます。

見方を変えると、語彙を豊かにし、ことばに敏感になっていくと、日々の生活のささやかな変化に感性を開くこともできるようになると言えます。例えば、十一月は異名で「霜月」と呼びます。初冬に現れる「霜」、霜は葉や落ち葉に縁取るようにつき、朝日が昇るにつれて溶け、露になってキラキラと輝きます。それが白く輝く美しさは枕草子の中でも取り上げられています。この時期独特の、寒さの中の美しさを感じさせることばです。「霜月」ということばは、「霜の季節」を生活の中で随所に意識させます。

季節だけではありません。心情や概念を表す言葉も世界には多く存在します。子どもの指導をしているときに嘆かされるのは、そうした抽象的な語彙が少ないことです。「いやな気持ち」だけではなく、「腹が立つ」「激怒する」「ためらう」「しりぞみる」「反感をもつ」いろいろな言い方があり、違いが

目次

- 一面 豊かなことばが導く世界
- 二面 入試結果報告
- 三面 ワークショップ振り返り
- 四面 ライブラリ紹介41
- 冬期講習のご案内
- レギュラー生へのご案内

